

モルモットの飼育環境改善と事前予約制を導入したふれあいプログラムについて

○松山薫

(横浜市立野毛山動物園)

横浜市立野毛山動物園では新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年2月29日から6月10日まで臨時休園となっていた。再開後もモルモットやハツカネズミのふれあいができる「なかよし広場」では感染拡大防止の為、ふれあいプログラムは中止となり、小動物の展示のみを継続していた。プログラム休止期間中に「なかよし広場」の在り方を見直し、飼育環境の改善や新しい展示の工夫、ふれあいプログラムの再開に向けた準備を進めてきた。

まず飼育環境の改善では、バックヤードにおいてモルモットを箱飼いから平飼いへの移行を実施した。これまでは飼育作業の効率化や時間短縮を考慮し、床面がステンレスの網で作られた木製の飼育箱を使用していたが、EUの定めた実験動物保護指令の飼育面積の基準を満たしていなかった。そこで、飼育箱を撤去して平飼いに移行することで飼育面積が拡充し、さらに足底潰瘍を発症する個体が減少した。また、新たに設けた屋外の展示場までの移動は獣舎内から展示場までをトンネルで繋ぎ、モルモット自ら移動してもらうことにより、飼育担当者と動物の負担が軽減された。

2022年7月20日より、一般向けのふれあいプログラムが再開となったが、新しい生活様式や動物福祉に配慮した内容に変更した。受付は原則、公式ホームページからの事前予約制とし、インターネットが使えない利用者向けに、毎日初回のみ整理券を配布している。事前に5分間の説明を聞いてもらい、その後15分間ふれあいの時間とし、モルモットはカゴの中にいる状態でのふれあいをお願いしている。事前予約制の新規導入に加え、制限のかかったふれあい方法に変更したが、これまでは特に大きな問題もなく、利用者の満足度は低下することはなかった。